

[シラス]

1. 経年経過及び平成18年1～3月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の6,060トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。平成16年は3,507トンと好漁の年となりました。志布志湾海域では平成12年の1,407トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しましたが、平成15年は842トンまで増加し、平成16年は1,204トンと比較的好漁の年となりました。

1～2月の集計で西薩海域では、カタクチシラス主体に17.7トンの水揚げで、前年の19%、平年の20%でした。志布志湾海域（一部未集計）では、カタクチシラス主体に29トンの水揚げで、前年の209%、平年の120%でした。3月下旬以降、各地で春漁が本格化し始めました。

2. 平成18年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域で、平年並か平年を上回り、志布志湾海域では平年並みか、平年を下回る可能性もあります。

（根拠）

西薩海域ではカタクチイワシ親魚の来遊が、本年1月以降、北西薩海域を中心に好調に推移していること、本年3月に実施した卵稚仔調査結果から、カタクチイワシの卵や稚仔魚の分布が、近年では平均をやや上回る水準であったことなどから平年並みか平年を上回ると考えられます。志布志湾海域では、今後の親魚の来遊を注視する必要があると思われます。

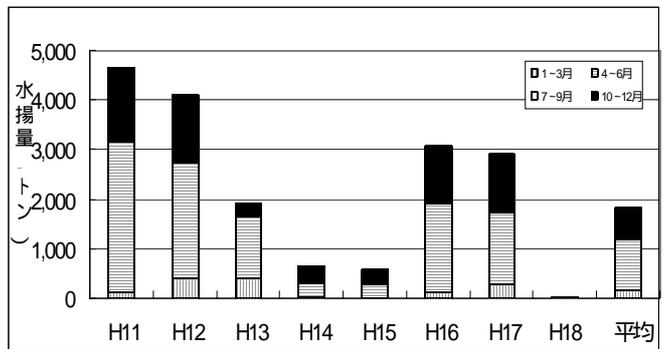
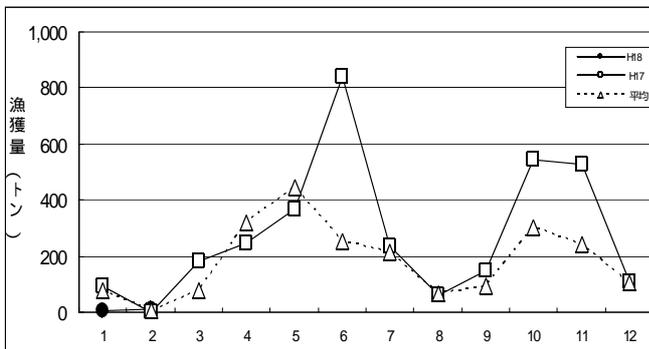


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平年値は過去5年（平成13～17年）の平均値，平成18年2月までの水揚げ量を使用。

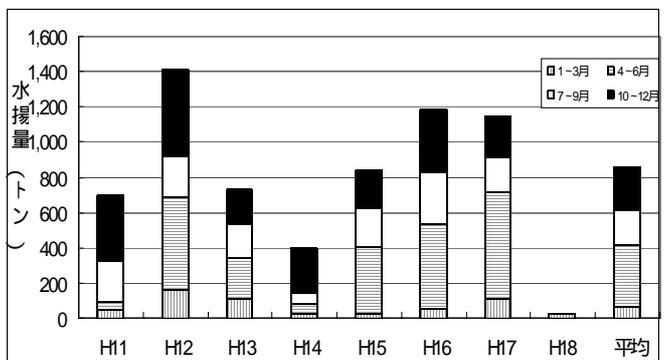
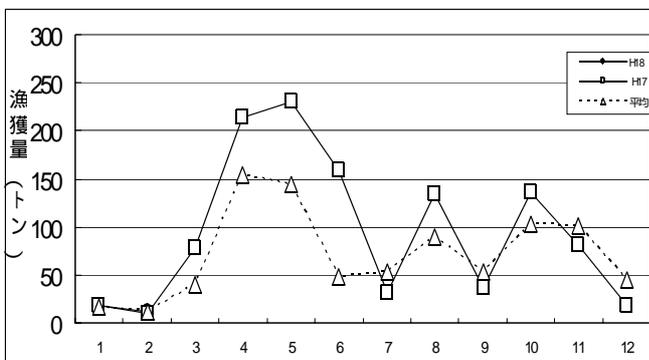


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年（平成13～17年）の平均値，平成18年2月までの水揚げ量を使用。